



いずみのひろば

2022年6月号

日本基督教団 堺教会
No.521 教会学校



大切なひと 創世記 2章



「光あれ！」そう言って、光を創られた神さまは、空や海や木、空を飛ぶ鳥や、海をおよぐ魚、地をかける動物をお創りになって、さいごに、神さまに似た、最初の人、アダムを創られました。



アダムの住まいとなったエデンの園には、たくさんの木があって、その実を食べることができました。エデンの園にいるアダムを見て、神さまは思われました。

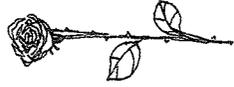
「アダムはひとりぼっちでかわいそうだ。アダムを助けて、一緒に生きるお友達が必要だ」

神さまは、お創りになった動物たちを、アダムのところに連れてきました。羊や、牛や、馬やにわたり。たくさんの動物がやってきました。

アダムは、動物たちに、ひとつひとつ名前をつけていきました。

でも、どの動物も、アダムを助けてくれるお友達にはなれなかったのです。

そこで、神さまはアダムを眠らせました。眠っているアダムのあばら骨をとって、もうひとりの人を創られたのです。アダムは男の人だったけど、こんどは女の人です。



眠りから覚めたアダムは、そこにいる女の人を見て、

「この人こそ、わたしの助け手、お友達になってくれる人だ！」って、一目でわかりました。

そうして、二人は、それから助けあって、一緒に、生きていくことになりました。

神さまは、わたしたちに必要なもの、必要な人、すべてわかっています。

だから、わたしたちには大切な家族やお友達がいて、わたしも誰かにとって大切なお友達です。

そして、もう一人、忘れてはいけない人がいますね。

この世に人として生まれてきてくださったイエスさま。



わたしの罪をゆるし、わたしに命をくださったイエスさまは、

神さまがわたしたちにくださった、一番大切な人です。

(おはなし 小林素子)